

2015年戦後70年—千葉市空襲記録と再び戦争を繰り返さない市民運動の到達点

空襲・戦災を記録する会全国連絡会議第45回東京大会 2015 配布資料 2015.8.22-23

千葉市空襲と戦争を語る会事務局 080-5305-3739、akioito@w3.dion.ne.jp 伊藤章夫

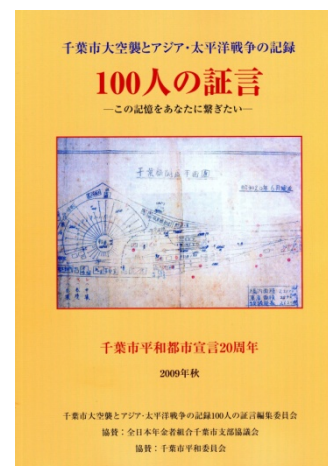
7月4日、千葉県庁からお城の形をした千葉市郷土博物館が見える亥鼻公園で7月7日の「七夕空襲」の直前の土曜日午後1時から平和祈念碑の除幕式を開催しました。この祈念碑建設は市民運動の一つの歴史的な成果です。大きな事業が終わったので、これまでの動きを振ります。

その前に千葉空襲の概要を祈念碑から転載して紹介します。

「1945年5月8日昼頃の空襲は、米軍艦載機による蘇我町の日立航空機工場と近隣の住宅・住民への銃撃で、機銃掃射で死者・負傷者が出ていますが、全容は明らかではありません。6月10日早朝8時頃の空襲では、第1目標の日立航空機工場への爆撃は蘇我町1丁目の住宅地に落ちて、住民242人が犠牲になりました。さらにB29編隊は、市街地を飛行し、寒川3丁目・2丁目・1丁目・港町・新宿町・新田町・新町・富士見町等を連続的に爆撃し、千葉県立高等女学校、千葉復活教会、千葉病院、千葉女子師範学校、省線千葉機関区等が被害を受けました。罹災面積は0.26km²、死傷者391名、罹災戸数は415戸。7月6日深夜から7日にかけての夜間焼夷弾攻撃（七夕空襲）の目標は千葉市街地で、さらに艦載機の機銃掃射が加わりました。吾妻町・本町・東本町・院内町・通町・要町・栄町・祐光町・道場北町・道場両町・亀井町・千葉寺町・長洲町・弁天町・富士見町・新町・新田町・新宿町・神明町等、千葉市中心部のほとんどが焼失し、さらに、鉄道第一聯隊（椿森）・気球聯隊・歩兵学校（作軍部町）、千葉陸軍高射砲学校（小仲台）等の軍事施設が被害を受けました。罹災面積は2.05km²、死傷者1204名、罹災戸数は8489戸。」写真：7/7空襲後の千葉市街地（米軍資料）（参考資料：千葉市作成「考えよう平和の大切さ」、千葉市空襲を記録する会編「千葉市空襲の記録」）

1. 「千葉市大空襲とアジア太平洋戦争の記録 100人証言集」

2008年7月に「千葉市大空襲とアジア太平洋戦争の記録 100人証言集編集委員会」（6人）を結成し、千葉市空襲を中心とした空襲、児童疎開、引き揚げ、戦争の体験を119人（一部遺稿も含む）から聞き取る運動を始めて、2009年11月に「千葉市大空襲とアジア太平洋戦争の記録 100人証言集」（注1）を3000部発刊しました。これには千葉市長も挨拶文を寄せて、199冊を購入して、市立図書館と市立中学校図書館におかれしました。6人の編集委員はこの証言集を精力的に普及し、2014年までに2000冊普及できました。この事業の成功は次のピースフェアや名簿作成、刻銘式平和記念碑の運動のあしがかりを作ることができました。



(注1)「千葉市大空襲とアジア太平洋戦争の記録 100人証言集編集委員会」が証言を集めた証言集（A4サイズ、331頁、厚さ1cm）です。2015年7月絶版です。インターネットでは「千葉市空襲と戦争を語る会」を検索すると全文が掲載されています。この本の前に千葉市空襲に関する専門的な本は、1980年11月に松本貞雄（故人）により出版された「千葉市空襲の記録」（A5サイズ、602頁、厚さ4cm）です。これも絶版です。

2. 千葉市空襲犠牲者数の問題

この証言収集過程で、千葉市空襲犠牲者数が複数あって、結局、正確な名簿がないことがわかりしま

した。例えば、千葉県が昭和 55 年（1980 年）2 月に設置した千葉市中央公園にある千葉市の「戦災復興記念碑」には、川上紀一執筆の言葉には「死傷者 1600 人を越え」とあるが、この時点で死者の数が県も市もわからなかったようです。この時に犠牲者の調査を県も市も始めればもっと詳細な記録ができたと思われま。また、期待していた空襲犠牲者名簿（注 2）の公開はなされませんでした。先の編集委員会は、解散して、「千葉市空襲と戦争を語る会」として 2011 年 5 月に活動開始しました。会の目的は、「会は再び空襲と戦争を繰り返さないために、①千葉市空襲に関する調査、②犠牲者氏名の名簿作成、③犠牲者の慰霊碑の建立、④空襲犠牲者慰霊祭の開催、⑤県内外、全国の空襲被害者と連携して運動すること」です。会はホームページ（「千葉市空襲と戦争を語る会」で検索）で運動を紹介しています。またマスコミの紹介記事を見て情報を寄せてくださる人がいます。

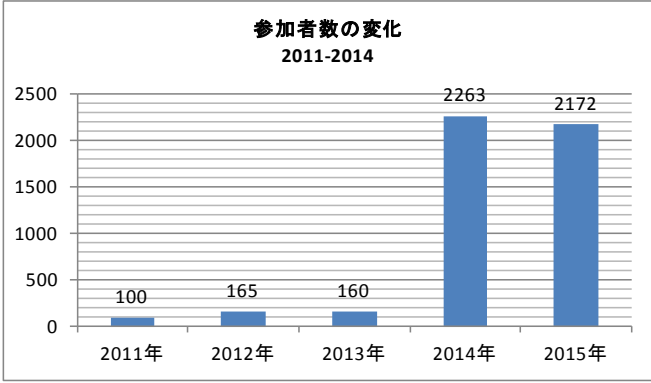
なお、千葉市は調査をしなかったが、地域では犠牲者氏名を調査した町内会・自治会があったことは特筆したい。それらは、蘇我町戦災死者之墓152人（うち蘇我1丁目住民124人）（1961. 6）、寒川1丁目忠魂碑24人（1963. 11、町内会）、寒川2丁目慰霊碑13人（1957. 11、自治会、内閣総理大臣岸信介筆）、寒川3丁目慰霊碑14人（1966. 11、町内会）、港町頌魂の碑62人（1983. 8、自治会）が記録されている。これだけでも犠牲者数は265人になり、675人の39%を占める。

（注2）千葉市空襲犠牲者名簿は、2007年ごろ文書で市役所に照会したところ、担当課の市民総務課は「290 名の名前を掌握しているが、個人情報なので開示できない」との回答でした。2014年月市長に直接質問する機会があって、質問したところ、「あれは名簿と言えるものではない、単なる誰かのメモである」と回答があったが、結局開示されていない。その後、2014年月に担当課の地域福祉課は、「その名簿は、千葉市戦災遺族会の了解を得れば開示できる」との回答を得たが、遺族会代表の理解が得られず、結局開示になりません。いつか関係者のご理解が得られることを希望します。千葉市戦災遺族会には「千葉市遺族会・千葉市戦災遺族会運営補助金交付要綱」により交通費など運動経費の2分の1が交付されています。千葉市遺族会に協力を申し入れたが、軍人と市民の犠牲者に相違を感じているようで、友好的関係が築かれていません。千葉市原爆被爆者の会とは友好的です。

3. 市民運動の協力関係

2009年秋に100人証言を刊行した時、「ちば・戦争体験を伝える会」と知り合い、全国でも珍しい2団体の共同市民運動が始まりました。「ちば・戦争体験を伝える会」は既に「伝えたいこと」（A4サイズ、156 頁、厚さ1cm）を発刊して、戦争を紙芝居で知ってもらう活動を展開していた。合同会議の名称は「拡大千葉市空襲と戦争を語る会世話人会議」とすることになり、市民団体が犠牲者名簿を作ること等共同行動で合意しました。

2011 年から、二つの団体で「千葉市平和のための戦争展」を毎年夏に開催することになり、現在は 6 月の「ピースフェア 2015」で知られています。開始後 3 年間は「千葉市文化センター」や「きぼーる」



の高層階の部屋に来てもらう集い方式で、参加者は 100 人から 200 人でしたが、2014 年からは「きぼーる」地上階アトリウム（出入口が三つある）を借りてから、入場者数は 2000 人規模（通過方式）になりました。来場者から犠牲者名簿の情報を得ます。1 年目だけ有料の部屋を借りたが、2 年目以降は地域活性化の効果が認められて、無料で使用できます。2011 年 9 月には、制度にのっとり市長（市民自治推進課）に市民提案型共同事

業提案書を提出したが、協働の理解が得られませんでした。市役所・教育委員会から後援はいただくが、補助金や助成金は受け取りません。活動費は基本的に寄付で賄います。マスコミの後援もいただきます。

4. 千葉市空襲犠牲者平和祈念碑建立実行委員会

2014年7月に千葉市空襲犠牲者平和祈念碑建立実行委員会（最終的に16人の実行委員）が結成されました。会の目的は「千葉市空襲犠牲者の名簿作成を進めながら、犠牲者の刻銘式平和祈念碑建立を目指す。」です。2015年7月、戦後70周年に建立すること及びそのための300万円の寄付集めを決めました。祈念碑の大きさは、高さ右側2m、左側1.8m、幅1.2m、厚さ0.2mの白御影石で中国産です。表側に、厚さ3mmステンレスの刻銘板、千葉市空襲の概要、裏側に祈念碑建立の由来と実行委員氏名を貼り付けました。名簿作成および刻銘碑建立については「神戸空襲を記録する会」（中田政子代表）の市民運動が大変参考になりました。特に市民と神戸市役所との連携に注目しました。



石材は千葉市中央区の山谷石材店に、金属印刷は川崎市の大村ネームプレート研究所に依頼しました（注3）。祈念碑施工・建立後の7月の夏季に撮影するとステンレス板の熱膨張率が大きいので、板が波打っているように写ります。

（注3）金属印刷は北海道のS会社に依頼して来たが、石材会社、金属印刷会社、依頼者との調整がうまくできず金属印刷は土壇場になって断られました。私の不手際で起きた事件です。除幕式の1か月前になってからうじて川崎市の大村ネームプレート研究所を見つけ契約することができました。

5. 除幕式設営

除幕式会場設備・運営には、セレスポに依頼して、当日テント2張り、椅子120個、机3脚、演壇、除幕の幕一式、立て札、電源、お茶ボトル120本などを契約しました。120人が参加しました。マスメディアだけでも新聞7社、TV4社で20人ぐらい来てくれました。実行委員会でも、救護班、受付班、案内班を設け、撮影班（2人）がビデオ撮影しました。除幕式は梅雨の合間の曇り日の幸運を得ました。実行委員会としては式の服装は自由としました。

6. 除幕式

開式及び黙祷の後、伊藤代表が主催者を代表して、祈念碑建立に至る経緯や、刻銘板に刻んだ人たちの数は675件との到達点を紹介しました。刻銘式に拘った理由として、①数字でなく、一人一人の生きた証を残す、②短時間にこれだけ大勢の方が戦争で亡くなるという事実を伝えたい、刻銘された人たちと今を生きる私たちが向き合っているが、残りの不明者300人の調査を継続したいと話しました。

来賓の熊谷俊人千葉市長からは、刻銘式祈念碑を市民運動で建立したことを評価する挨拶をいただきました。続いて、「千葉市空襲と戦争を語る会」の白井進（年金者組合中央区支部長）が、再び戦争を繰り返しかねない今の状況下でこの碑を建てることの意味を語り、千葉空襲の遺族の森大死さんと安達福太郎さんが親を失った悲しみ、辛さ、そして祈念碑に親の名前が刻まれたことへの感動を述べました。東京空襲の遺族の河合節子さんは家族をなくした悲しみを訴えながら、全国で空襲被害者に補償を求める運動を紹介しました。千葉市原爆被爆者の市原憲二郎さんは、千葉市の空襲犠牲者の運動に連帯の言葉をいただきました。千葉空襲平和祈念碑は、原爆被爆者慰霊碑の左隣にできました。閉会の挨拶で佐

藤昌男さんは、この場を借りて市民の浄財を基にした財政活動の会計報告をしました。会計報告は維持寄付が続く限り続きます。

予定した時刻より早く終わりそうなので司会（市川まり子代表）が会場にマイクを向け、何か感想や意見を求めたところ、東京の元教員女性と千葉の千葉女子高（旧千葉高女）出身者の女性が発言したので交流もできました。除幕式終了後、遺族らが碑の前で家族の名前を見つけていました。来場者に最新の千葉市空襲犠牲者名簿を配布しました。（ご希望の方にはお送りします。名簿は無料、送料 140 円）。

7. 財政活動とその公表

寄付が除幕式後も継続するので、7月24日の状況では、収入額は412人（振込用紙286人、現金受領126人）の方から319万円の寄付をいただき、支出は、250万円（石碑本体+施工120万円、プレート本体+金属印刷72万円、除幕式実施50万円、犠牲者名簿1000冊8万円）であった。名簿は、氏名、性別、享年、被災場所の項目があるA4サイズ、16ページです。

8. 意義

皆様の協力で得られた成果の意義は、①遺族・市民の要求が実現できた、②歴史に残る事業ができた、③これまで達成されなかったことを市民運動が成し遂げた、④平和行動の一つの拠点を築いた、⑤祈念碑建立事業は、戦争を繰り返さない立場であり、「戦争する国」をめざす政府に与しない、⑥年金者組合と組合員の働きが大きく発揮できたこと等であると思います。

9. 維持発展

名簿の訂正・追加は建立後も連絡がきます。寄付は、碑の維持・名簿の更新のために続けます。同時にこれまでできなかった運動を開始します。名称を「千葉市空襲犠牲者刻銘式平和祈念碑維持・発展委員会」（仮称）のような委員会に変更することを考えています。まず、維持のためには、定期的なパトロール、清掃、破損チェック等が必要になりますが、犠牲者の名前が多く判明すると、ステンレス板を増やして、氏名を刻まなければなりません。また、発展のためには、市民、郷土博物館見学者、観光客への宣伝、学生・生徒への平和教育を重視し、貢献したいと考えます。原爆被爆者慰霊碑（注5）と合わせて平和教育副読本等の構想を考えます。

かつて、1995年第1回から第8回2002年まで千葉市で開催されていた「平和のための戦争展ちば」実行委員会が会場を千葉市で開催していたが、千葉市に運動の弱さもあり、船橋市に会場を移しました。「千葉市空襲と戦争を語る会」は、2012年7月にこの戦争展実行委員会にも参加し、千葉市空襲被害調査等を全県に提起しています。

千葉市の市民運動が主催するピースフェア（千葉市平和のための戦争展）は6月に開催されるが、実は市役所が7月7日の空襲記念日を含む週に同じ会場で「千葉市空襲パネル展」（1987年開始）を実施されるのですみ分けをしています。市民運動はかつて市役所に共同開催を提案したが実現しなかった。

今後、市役所との関係を維持するためにも、代表ら世話人4人が7月30日に担当課にお礼と維持・発展の考えを伝えました。これからも皆様のご支援をお願いします。

（注5）千葉では、被爆者の運動は千葉空襲と一緒に運動した経験が乏しいです。過去には、国民平和大行進の帰着式、出発式を亥鼻公園（岡の上）の慰霊碑前で実施したこともありました。原爆被爆者慰霊碑は三木武夫総理大臣の揮毫で、昭和53年5月建立されて、既に27年経っている。原爆被爆者の碑には犠牲者の名前は刻まれていませんが、犠牲者名（簿）を公表しない点では広島市も同じと言えます。